



子どもと学ぶ

-児童を対象とした心理学的支援法の実践-



1251027 藤井孝亘 6191036 河田陽向子 6231111 林拓実 6241011 岩崎陽 6241067 棚橋歩大 1251024 平岡幸樹
6251023 小澤鈴史 6251031 釜増莉緒 6251063 鈴木啓太 6251081 利根川魁星 6251088 中野沙咲 6251143 山上泰知

1.学習目標

[野外活動を通して、学生と子どもが相互に学んでいく]

- ・子ども：協調性・達成感・自主性
- ・大学生：多様性理解、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルを身につける

2.事前学習

三木ホースランドパーク 研修センター

活動内容

6月上旬～8月中旬 企画・経験学習

7.30 プレ(本番想定のリハーサル)

8.22 デイキャンプ

9月～ 事後学習（ふりかえり・報告会準備）

8.22 スケジュール



3.振り返り

【上手くいったこと】

- ・子ども・大学生全員、体調不良やケガなく終えることができた
- ・アクシデントもあったが、ほとんどスケジュール通りに進行できた

Why? 企画期間中、細かい部分までマニュアルを作成して何度も確認を行ったから

- ・チームメンバー同士でフォローし合うことができた

Why? お互いの個性を理解し尊重し合えたことで、自然なフォローと広い視野を持てたから

【困難だったこと】

- ・個人の意見を尊重しつつ、現実的で子どもたちが楽しめる計画を立てること

要因 話し合いが長引く中で、根本的な考え方にズレが生じたから
盛んに意見交換が行われるがゆえに、一つにまとめることが難しかった

▶ 周囲のアドバイスも取り入れながら、子どもの目線に立って考えることを意識し続けた

- ・情報共有する際の報告漏れ、伝達ミス

要因 グループでやっているという意識にばらつきがあった
SNSを使用した連絡に頼りすぎた

▶ 理解度をそろえるために、全員で対面で何度も内容の確認を行った

4.今後の 学びに向けて

もともと子どもと関わるボランティアをしていたため子どもの扱いには自信があったが、同じ対応では上手く距離感を掴めず、難しいと感じる場面が多々あった。今回のサービ
スラーニングを通して実際に子供と関わる中で、相手に安心感や信頼を与える接し方や
適切な距離感を学ぶことができた。それぞれの子どもたちに合ったコミュニケーション
を取ることが大事であると強く感じた。この経験は将来カウンセリングの場で子供が心
を開きやすい環境を作るのに役立つと考える。

今回の活動では、初対面の子ども同士の間をつなぐのに苦労しました。序盤では、子ど
もたちの緊張から、班活動が思うように進行せず雰囲気が悪化した。そのため調理や
ゲームで役割分担を自分が与えることで自然な会話を促すことで、雰囲気が改善した。
今後は、人と人をつなぐ役割を大切にしたいと思う。将来、相手の緊張を和らげる工夫
を意識し、異なる年齢の人々とより良いチームワークを築きたい。

今回の経験を通じ、子供の状態に合わせた活動内容や時間配分の工夫、そして自分自身
が余裕を持って臨む姿勢が大切だと学んだ。一人一人の違いを尊重し、全員が参加でき
るような遊びを考えること、自分自身も楽しむ姿勢を忘れず子供と共に学ぶ姿勢をとる
ことは、子供との関わり方を考える上で大きな学びとなり、今後の生活や将来にもつな
げていきたいと思った。

今回私は裏方として活動していたため、子どもたちと関わることはあまりできなかった。
しかし、子どもと関わるメンバーをサポートする裏方に徹してみて、人の強みを見つけ
て生かすこと、リスクを想定して準備することが重要だと気づいた。企画の段階で個々
の特性を生かせる役割分担をしたことで学年・ポジションに関係なく、互いに頼ること
の大切さを感じた。今回の活動で気づけた自分の長所をさらに活かせるように、心理学
の専門的知識を身につけつつ、それを実践できる機会を逃さないように視野を広く持ち
たい。

5.アンケート評価

・リーダーと仲良くなれたか



4.30 (n=23)

・今回は楽しかった



4.61 (n=23)

デイキャンプ感想



個人情報は伏せていますが
お取扱いにはご注意ください。
(共有不可)